おせんべ やけたかな

草加市立瀬崎小学校　奥村　勇

「おせんべ やけたかな」
美味しく焼ける魔法の言葉。

３年生がせんべいやきに夢中になっています。
保護者の方々もおもわず顔がほころびます。

火力に応じた焼き加減が意外に難しい。
「ここだけ、ちょっと黒くなりました。（まだら焼き）」
「きれいに焼けました。（うっすら小麦色焼き）」
「真っ黒になりました。（まっくろくろすけ焼き）」
「完璧です。（お店焼き）」

焼き加減に一喜一憂する瀬崎っ子。
自分で焼いたおせんべいは、何よりも美味しい。
焼きたてに、醤油をたっぷりとぬってほおばる顔は、幸せにあふれています。

「家族の分も焼きました。」
「校長せんせい、どうぞ。」
回数を重ねて行くうちに、どんどんと上手になる子供たち。
もはや「せんべい職人」のような風体の子も。
やはり、体験は強い。瀬崎に、体験の風が吹きました。

生き生き度１００％の顔で、少年が熱く語ります。
「このせんべい。世界一美味しい。」
「今日の授業は、世界一。」

世界一の授業に参加して頂いた保護者の皆様、本当にありがとうございました。